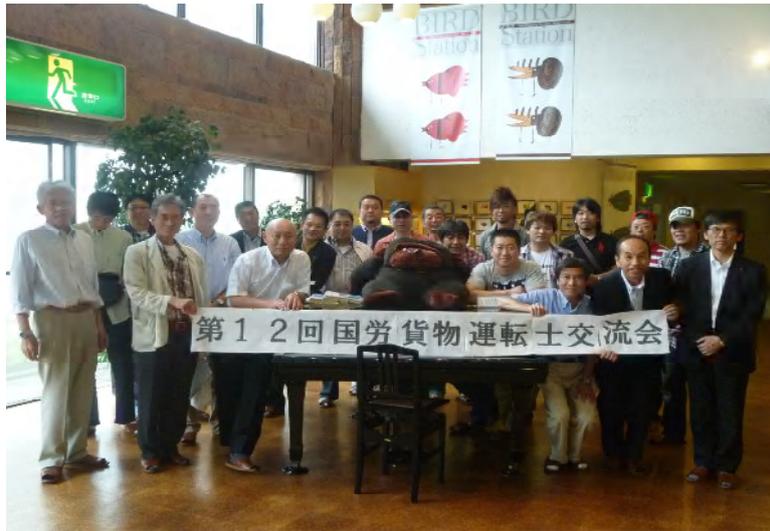


第12回貨物運転士交流会開催



第12回貨物運転士交流会が、6月29日から30日にかけて那須塩原で北は青森総合鉄道部から西は吹田機関区までの仲間25名が集いました。

当日は一年ぶりの仲間と笑顔で再会をしましたが、出てくる話題は「会社の夏季手当の回答に心から怒りがこみ上げてくる」「俺達を何だと思っているんだ!」「他労組に責任組合と呼べる資格なし」等と、26日に貨物会社が出した夏季手当の回答(1.1箇月)、並びに他労組の「回答即妥結」情報に怒りを込めての会話が續いていました。

当日は青森総合鉄道部～吹田機関区まで15の職場25名が集いました。

主催地東日本から国労東日本本部運転協議会議長の長谷川さんから、「東日本で昨年10月実施された検修外注化の実態と問題点並びに乗務員勤務についてのQ&A作製が出来あがり、勤務改善・勤務管理に役立つように皆さんに提供していきたい」と報告されました。



次に国労全国貨物協議会議長の眞田さんから現在の貨物情勢として、①今夏季手当についての経過②貨物職会社内事故についての危機感を抱かざるを得ない状況について報告されました。特に、夏季手当についての報告では、JR発足当時の会社組織経営の構造矛盾について、当時国鉄を分割民営化した政府の責任問題、並びに発足以降の貨物会社の責任問題は避けて通れない問題である事を詳細にわたり報告されました。

「この間の旅会社の国労の仲間による支援に対して感謝し、7月1日の行動についての取り組みを最大限の協力をお願いしたい」と訴えられました。

その後、運転全国連絡会事務長(東京運車協議会)の安濃さんから、昨年青年部の方から宿題として出されていた「40条予備について」の学習会を行い、近畿地方本部執行委員の永井さんから「乗務員勤務について」と題して同じように学習会を開催しました。



夜の交流会は一般の方と同じ食堂でしたので、やや控えめでしたが、部屋に帰ってからの交流は盛大に「夏季手当の問題・職場の問題・運転に関する事」等など多くをお互いに語り合っていました。

翌日開催エリアである国労東日本本部執行委員の武笠執行委員から、「貨物会社の夏季手当回答に対する怒り」「東日本本部運転協議会の勤務プロが作成している乗務員勤務Q & Aの作成状況について」を報告されました。

同時に勤務の改善・労働条件を改善するには「数は力」である組織の拡大が急務となっている事が報告され、「本部指令に基づく組織拡大を一緒に行っていきたい」と提起されました。



その後各地方報告として、

秋田から、青函トンネルでの騒音問題について地域住民から苦情が出され、労働組合としても取り扱ってきたが、会社は「問題ない」と言う言葉で片付けられている。

東海から、会社回答の1.1カ月について、今後はここからスタートするという危機感がある。

長野から、75%列車速度の列車を5時間弱での運転での問題点、元気のよい人が退職を迎え職場が暗くなってきている。

稲沢から、現在の若い乗務員について将来が不安を抱えるような言動が見られる。機関士になって2~3年で新人を教えている状況に将来的な不安を持つ。

近畿から、ATSの切り忘れなどの事象が近年増えつつある。

等々、多くの問題点が報告されていました。

まだまだ言い切れない貨物の仲間の声でしたが、次回再開する時には新たな仲間を連れてくることを誓い合っ

て散開となりました。



散開後地元の黒磯機関区の因泥さんの紹介で、南が丘牧場に出向き、普段の仕事の疲れからなのか牧場の馬への餌やりに「ウツトリ」と癒されている方が多く見受けられ、これはこれで「病んでいるのかな？」と思わせる場面が見受けられました。



(実に美味しかった牧場名物のソフトクリーム)



昼食もご紹介された「やなば」に出向きましたが、一日早くまだ「やな」そのものが組み立てておらず、雰囲気だけを楽しむことができました。

(それでも鮎美味しかった~)

皆さんそれぞれの思いを持ち寄り、交流してきた「第12回貨物運転士交流」でしたが、結論はやはり組織拡大で、多数派になることが職場要求をはじめ、今回出された諸問題の解決の早道である事だと言うことを再認識しました。

今回も多くの青年(?)が集い、思いを述べて来た交流会でした。

次回再開するときには、ひとりでも二人でも多くの仲間を連れて参加することをお互いに再度確認し、再開する事になりました。

当日準備をされた方には大変お世話になりました。

ありがとうございました。

